

2020 年冬鳥ウォッチの報告

バードリサーチ 山崎優佑・平野敏明

2020 年度は新型コロナウイルスの影響で、不要不急の外出は控えるなどこれまで通りの生活が中々できない 1 年となってしまいました。元の生活に戻れるようになるのはもう少し後かもしれませんが、皆様くれぐれもご自愛ください。天候については 1 月に北陸で大雪が降るなどありましたが、それ以外では主な異常気象は聞かず、北関東は例年通り晴れの日が多かった印象があります。1 年前は「公園でアトリをあまり見ない」という声をよく聞きましたが、今年は、数羽だけど見たという声をちらほら聞きます。また、マヒワの群れを見たという声も複数個所で聞きました。では全国的にはどうだったのでしょうか、以下に 2020/2021 年冬（以下 20 年冬）の記録状況を報告します。

調査地及び記録状況

20 年冬は、北海道から九州までの 86 名より合計 140 か所の調査地で各種の合計 234 件の情報が寄せられました。いずれも過去最多を更新しました。

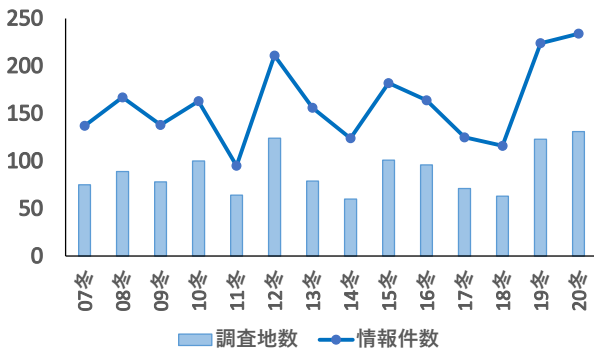


図 1. 冬鳥ウォッチの調査地数および情報件数の推移

情報件数を地域別で見ますと、関東地方が最も多く、その次に中国地方、中部地方と続きます。例年は情報件数の半分以上は関東が占めているのですが、20 年冬は中部地方と中国地方からも多くの情報を寄せて頂きました。中国では岡山県、中部では長野県や愛知県からの情報が特に多かったです。一方、関東の情報件数は昨年と比べると少なかったです。この時期首都圏は、緊急事態宣言が再発令されるなど、新型コロナウイルスによる被害が特に大きかった時期でもあったので、これが関係しているかもしれません。

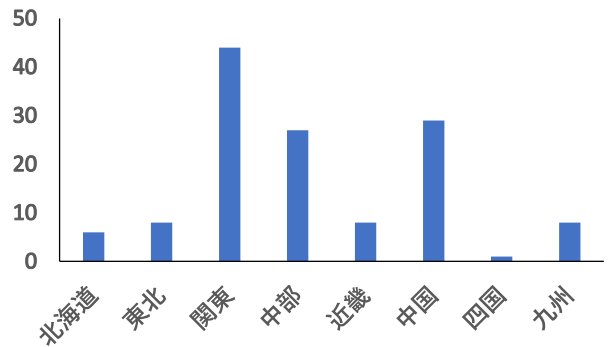


図 2. 地域ごとの調査地件数

20 年冬の冬鳥の傾向

今回、冬鳥ウォッチの情報だけでなく、12~2 月に野鳥データベースに寄せられた情報も含めて分析をしました。

20 年冬のカシラダカ、マヒワ、アトリ、カワラヒワの 4 種の情報件数は 19 年冬(こちら冬鳥ウォッチと野鳥データベースの合計)より多い結果となりました。また、全国的に 21~50 羽の群れサイズの情報件数も増えています(図 3)。19 年冬は例年と比べて 1~20 羽の情報件数がやや多い年でした。この事については、19 年冬は秋に超大型の台風が上陸したなどの影響でこれまで採餌で利用していた場所の餌の量が減少し、集団でいると餌を獲得できず、分散して行動していたのかもしれないと考察していました。しかし 20 年度の秋や冬はこのような大きな自然災害が多くなかったため、

集団でも餌を獲得することができたのかもしれませんが。

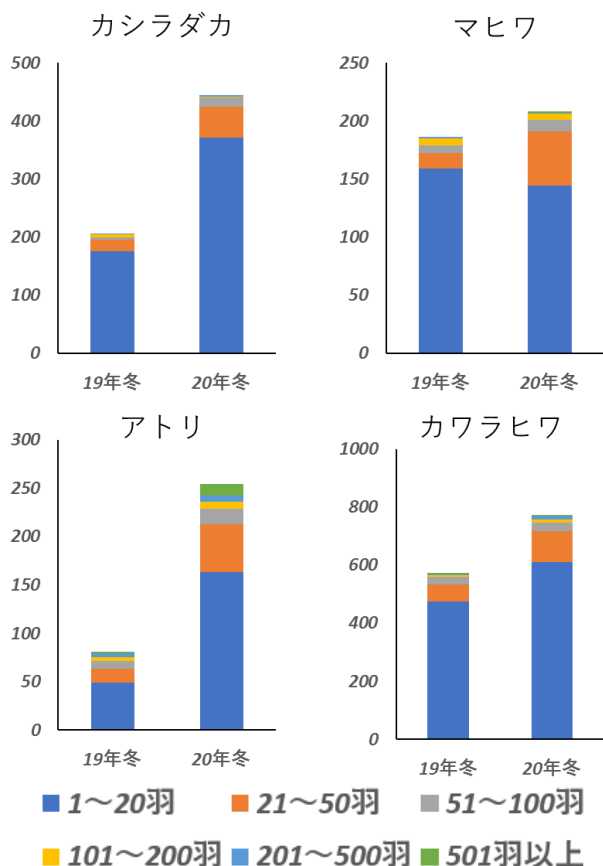


図3. カシラダカ、マヒワ、アトリ、カワラヒワの19年冬と20年冬の情報件数

19年冬は関東でのアトリの目撃情報は過去5年間の中で1番少ない年でしたが、今年は多くの場所で目撃されました(図3)。地域によって越冬状況に少し違いがあったように思われます。東北・関東・中部地方では各地で目撃情報が寄せられていますが、群れサイズはそれほど大きくありませんでした。数百羽の群れが報告されたのは宮城県だけで、数千羽以上の群れを観測したという報告はありませんでした。例年は北陸で数百羽の群れが報告されているのですが、今年はありませんでした。1月の大雪などが影響したのかもしれませんが。また、長野県で調査をされている方からは「例年は1000羽以上越冬しているのに今年は見なかった」という話も聞きました。一方、中国地方や九州

地方では数百~数千羽規模の大きな群れが複数の場所で報告されました(図4)。500羽以上の群れに関する情報は、過去10年間で特に多い年となりました。岡山県からは例年以上に大きな群れが観測されたという報告もあります。以上のことから20年冬のアトリの越冬状況は、全国各地で越冬はしていましたが、東日本では小さい群れで越冬していたのに対し、西日本では大きな群れで越冬する傾向があったと推測されます。

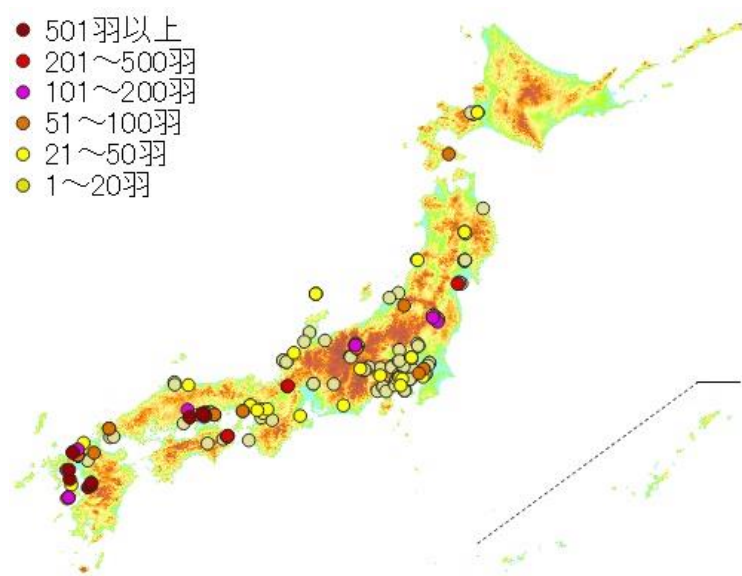


図4. 20年冬のアトリの目撃情報

ハギマシコの群れが越冬する環境

これまで冬鳥ウォッチでは、ハギマシコの情報収集もしてきましたが、カワラヒワやアトリなどと比べて身近にいない種であるためか、情報がなかなか集まらず、分析を進めることができませんでした。しかし、冬鳥ウォッチを開始してからこれまでに提供して頂いた情報件数が今年で90件を超えました。そこで、ハギマシコがどのような環境で目撃されているのか、紹介したいと思います。ハギマシコは海岸や岩場、開けた草地などで越冬します(1)。冬鳥ウォッチで寄せられたハギマシコの情報で、どのような環境でよく目撃されているのかを調べた結果、意外にも森林(樹林・植林・雑木林)でよく目撃されていました(図5)。上空

通過や休息中だったものがたまたま目撃されている可能性もありますが、一部では、樹林にいて、地上で採餌をしていたといった情報もあります。とすると、森林でも多く採餌しているのかもしれませんが、ただ、100羽以上の群れが目撃されることは少なく、大きな群れは水田や畑、岩場などで目撃されることが多かったです。

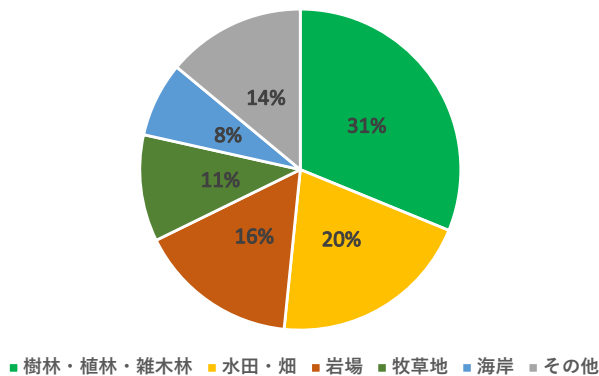


図5. ハギマシコが目撃された調査地の環境

2020年11月のバードリサーチニュースで、アトリ、カシラダカ、カワラヒワの個体数の経年変化を分析し、紹介しましたが、ハギマシコが目撃されている調査地は、継続的に調査されている場所がほとんどなく分析することができませんでした。しかし中部地方で、30年以上前から毎年ハギマシコが観察されている場所があります。観察を始めた当初は、年によって群れのサイズに変動があるものの200~300羽の群れが観察されていたそうです。しかし近年では群れのサイズが縮小し、50~100羽ほどになってしまったそうです。これは、ハギマシコの越冬分布がこの期間に変化し分散したのか、それとも全国的に個体数が減少してしまったのかはわかりません。これを明らかにするには、各地の同様な情報が必要です。既に同じ場所で長期的に調査をしたデータがあれば、時々調査をしていない年があっても分析に使う事ができますので、そのようなデータをお持ちでしたら、是非ご提供頂けると幸いです。



写真提供：三木敏史氏

最後に

フィンランド、スウェーデン、デンマーク、オランダでは、アトリの越冬個体数が減少傾向という事が2016年に報告されています(2)。世界的にアトリが減少してしまっているのかを解明するには日本での越冬個体数を知ることは必要不可欠です。2019年冬からアトリや他の5種の越冬個体数に関する情報が劇的に増えました。この時期からインターネット・バードソンを開催するようになったので、これが関係していると考えられます。また、冬鳥ウォッチの方でも、10年以上毎年調査が続けられている場所が9か所増えました。冬鳥ウォッチでも野鳥データベースでもどちらでもよいので、これまでに記録をとった場所で今後も引き続き記録をとり続けてほしいと考えています。いないという情報も貴重な情報です。この作業が継続することで、日本の鳥の越冬状況が分かってくると考えています。今後も是非調査にご協力をお願い致します。末尾ながら、冬鳥ウォッチに情報を寄せて頂きました皆さまのご芳名を記してお礼に替えさせていただきます。また、今回分析を進めるにあたって野鳥データベースに収集されたデータも利用させていただきました。日頃より野鳥データベースに情報を提供して頂いている皆様にも深く感謝申し上げます。

松浦秀一、衣川直美、井上佳祐、井上幹男、井上賢三郎、一倉行雄、影山克己、園村茂夫、延江勝彦、猿子正彦、遠藤理、塩川桐子、加藤俊哉、加藤美奈子、巻幡幸成、丸山健司、金子凱彦、金子正、権田茂、古田和生、五十嵐勉、香西宏明、高橋邦年、黒沢令子、佐藤美恵子、山田隆章、四ッ家孝司、寺屋

圭一, 鹿間信弘, 洪鋤啓, 洪江奈緒美, 小見山節夫, 小池順子, 小林俊子, 松村雅行, 松本英子, 松脇菜那子, 上出貴士, 上村耕一郎, 植松晃岳, 須田由美, 菅原美奈子, 清水敏弘, 西岡達彦, 西教生, 石井智陽, 石田健, 千島康幸, 村尾雅宏, 多田英行, 大出水幹男, 大村洋一, 大塚啓子, 大内晴, 滝澤三郎, 竹内江利子, 中村さやか, 町田喜彦, 田中康平, 田中正晴, 渡部通, 渡辺美郎, 渡辺裕幸, 藤井聖三, 藤江昌代, 藤波不二雄, 内田初江, 二村一男, 武市絵美, 蜂谷栄朗, 木下英, 木村雅世, 木村有紀, 野嶋宏一, 柳沢盛一, 鈴木ゆう, 濱伸二郎, 堀田昌伸, 務台明, 森田晃代, 藤田裕子, 三村啓子, 相澤明, 満田風丸, 森下英昭, 渡辺明美

参考文献

- (1) Birds of the World - Cornell Lab of Ornithology(最終閲覧日：2021年4月22日)
<https://birdsoftheworld.org/bow/home>
- (2) Lehtikoinen, A., Foppen, R.P.B., Heldbjerg, H., Lindstrom, A., van Manen, W., Piirainen, S., van Turnhout, C.A.M. & Butchart, S.H.M. (2016). Large-scale climatic drivers of regional winter bird population trends. *Diversity and Distributions*, 22: 1163–1173.